ダンボールコンポストでの作り方

準備物

- ●ダンボール箱(中敷き有り)
- ●設置台(網台など)
- ●虫除けカバー●クラフトテープ
- ●スコップ

■混合比率グラフ

〈基材〉

●ピートモス ●もみ殻くん炭



もみ殻<mark>くん炭:2</mark> ピートモスは、米ぬか・

♪ おがくず·竹パウダーなど で

代用できるよ!



▲ピートモス



▲もみ殻くん炭



まずはダンボールコンポストと基材作りからはじめましょう!



ダンボール箱の継ぎ目等を クラフトテープでふさぎま す。これが虫対策にもなり ます。



ダンボール箱の底は、補強 するため、ダンボールの中 敷きをしきましょう。 側面も補強すると、より丈 夫になります。



3

基材は3対2の割合で、ダ ンボール箱に入れ、水を適 量(20程度)を入れながら 混ぜ合わせます。



4

ダンボールコンポストは、 通気を良くするために網台 などにのせ、地面から5cm 程度は離しましょう。



毎日のサイクル

空気を入れるため、ダンボール 内の基材全体をかき混ぜます。

さあ! ダンボールを使った 生ごみ堆肥化の スタートです。

真ん中を 混ぜる あける

基材を かける 生ごみを 入れる



水切りは不要です。 真ん中にまとめて 入れましょう!



堆肥化のステップ

ステップ① 生ごみを入れる 。 (世帯の人数などで異なります。

ステップ② 基材をリフレッシュ ・・ ヶ月に1回程度) 水分調整を行うことから。

ステップ③ 熟成する

ステップ④ 堆肥を使う



牛ごみの投入

生ごみは基材の真ん中に投入します。分解が早く進むように、できるだけ細か くしましょう。間違って入れたものや分解されないものは、気づいたときに取 り除いてください。





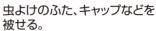


分解の過程で白カビが発生しますが、 正常に分解している証で、問題あり ません。



水切りは行わず、生ごみを一気 スコップで箱の中全体をかき に投入する。

まぜる。





5月~10月の暖かい季節になるとダンボールに 虫が卵を産みます。キャップの内側などに産むこと があるので取りはずし時に注意!

※虫が発生したら、袋に移し変えて中の空気を抜 いた状態で、日干ししよう。できるだけ平らにする と効果的です!



廃油や米ぬかなどを 入れると微生物が活 発に活動します!





生ごみを投入して1ヶ月程経つと基材が「 べたべた」として、かき混ぜる感触が重く感 じてくることがあります。こんなときは基材 を切り返して、リフレッシュさせましょう。

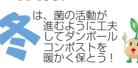
【切り返しとは?】

基材の水分などが均一になるように混ぜ合 わせること。

※晴れた日に作業して乾燥させましょう。 切り返しは、1~2ヶ月に1度が目安です。



箱から基材を全て出して、よ くかき混ぜ、もう一度箱に戻 しましょう。





熟成のタイミング

生ごみの分解が進まなくなり、アンモニア臭がして きたら、生ごみの投入をやめてください。(4、5人 家族の場合は約3ヶ月、2人家族の場合は約5ヶ月 が目安)。熟成期間に入るタイミングです。

週に1回、10~20の水を入れてかき混ぜます。水 分を加えたとき温度が上昇しなくなったら完成で す。

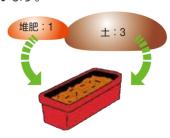
生ごみを最後に投入してから、堆肥の完成まで5 週間程度かかります。



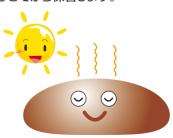


堆肥として使用する場合は、 苗の下や近くに撒きます。

プランターで使うときは、土を3に 対して、堆肥を1の割合で混ぜて 使います。



できた堆肥をしばらく使わない 場合などは、2~3日干して乾燥 させてから保管します。



松阪ダンボールコンポストの会 代表 柴田 実さん 090-9916-8421